



発行 2009年2月28日

〒679-3341 兵庫県朝来市生野町黒川292

Tel / Fax: 079-679-2939

E-mail: info@hanzaki.net

NPO 法人 日本ハンザキ研究所 梶本 武良

ハンザキ研をめぐるスター

アケビコノハガ

“めんたま虫”だ！！初めてこの芋虫を見つけた時には教科書に出ていた擬態のモデルだと感激した。目玉のように見えるのは眼状斑で、本当の目は他の芋虫同様に体の先端部にある。アケビの葉をモクモクと食べている所を小枝でチョンとつつくと、写真のポーズになって動かなくなる。お尻をツンと突き出したようなかわいい格好だが、無論お尻の開口部は体の後端部にある。竹串を突き立て並べて、この幼虫を1匹ずつ止ませ順番に突いて皆同じポーズにして遊んだりした。沢山の幼虫を集めると体色の違うことに気が付く。アゲハチョウの幼虫のように成長につれて黒から緑色になるのではなく、同じ大きさで黒・緑・茶という3色があるのである。(2ページの写真1~3参照)



この芋虫君の未来の姿に出会ったのは、かなり以前のことだった。枯葉そっくりの羽をたたんで止まっているガを撮影していたのだが、調べることも無く長い間忘れていたのであった。芋虫を飼育していると、やがて葉っぱを外カバーにして蛹になった。どんなガが出てくるのかと楽しみにしていたら、なんと？十年も前に撮影していたあの「木の葉蛾」だったのである。図鑑で調べると、成虫は果実の汁を吸って傷を付けてしまう害虫との事である。でも、あの目パッチリで可愛らしいお尻ツンのポーズのメンタマ虫を見ると、少々のは害は免除してやってほしいなと思ってしまいます。



写真1 アケビコノハガの茶色幼虫



写真2 アケビコノハガの緑色幼虫



写真3 アケビコノハガの成虫



写真4 カマクラの中の子供たち



写真5 パソコンのモニターで黒主出現を捕らえる



写真6 ダムの温水放水の水蒸気でモニターも観察不能

## レーザーポインター

スクリーンに映し出された映像を竹ざおで指したりしていた昔に比べると科学の進歩は素晴らしいと思う。今では遠く離れた場所からレーザーで指し示して話を進めることが多い。大勢の前で壇上にあがって平常心で話が出来人はうらやましい。馴れもあるのだろうが私は子供の頃から人前に出て話しをするのが苦手で、常に人の影に隠れてやり過ごそうとしていた。そんなことを言っても仕事から、再々高い壇の上で話をしなくてはならないことが増えてきた。そのような場合に最も困るのがこのレーザーポインターの扱いである。心の動揺がもろに手に震えを起こすと、少々のことでもスクリーン上では大きくぶれる。特に昔のピンポイントの物では赤い小さな点がチラチラ動き回って指したい場所に静止してくれない。時々、振り回す人もいるがトンボのように目を回しかねないし、時には会場の方にレーザーを照射してくる人もいるので油断していると直撃を受けて危険極まりないことになる。

20年ほど前に、日本動物園水族館協会の総会(釧路市動物園で開催)でオオサンショウウオの生態研究論文が表彰を受けて記念講演をすることになった。まだ、そのころくらいしか動物園水族館雑誌に掲載されていなかったのであるが、息の長い調査研究が期待されるという判断で賞を頂くことになったものである。それから十篇くらいを書き続けたので、期待に沿うことは出来たと思っている。さて、いよいよ講演をする段になって体が硬直するのが感じられた。それは、すぐ目の前に居られる総裁の秋篠宮殿下や全国の動物園長90名、水族館長70名ほどの大勢の方々の前で初めての講演をするからであった。そして、話し始めてすぐにポインターの赤点が震えているのに気づいた。気になって話のほうも上の空になりそうで、困ったなと一瞬思ったが、演台の両側が斜めに切られていたので咄嗟にそこへポインターを押し付けることで、とりあえず振動は抑えることができたがこれでは身動きできない。

次に思いついたのが、二丁拳銃のガンマンのことだった。西部劇で格好良く銃を撃ちまくるスターのことだ。つまりポインターを拳銃のように腰だめにしたのである。これなら自由に動き、ポイントも確実に示すことが出来て安堵したが、見ている人もやれやれと思われたに違いない。私と同じような方がいれば一度試してみてください。もっとも体全体が振動する場合には諦めねばならないかもしれませんが？

その後、点から円にまでと点からラインにまで伸縮させることが出来るものが気に入ってマイ・ポインターとして愛用してきました。大きな円なら少々震えてもあまり気にならないし、肝心の部分が赤い点でまぶしくて見ることが出来ない欠点も排除できるものである。しかし、最新の機器ではポインターで画面を進退させることも出来ると言う。「次、お願いします」と何十回も繰り返さないで済むので講演もスムーズに聴きやすくなった。この次にはどんなポインターが出現するのだろうか

## モニターはテレビより面白い

ハンザキ研の生活は素晴らしい。電話も無かった時には本当に静かで俗世間と縁が切れて良かったが、最近はファックスどころかメールを見させられることになり、のんびり出来なくなってしまった。テレビも置かないので外界の情報はつけっぱなしのラジオで知ると、昼前後に配達される地方紙である。テレビがあるとつい見てしまい折角の天国時間があっという間に過ぎてしまいそうで怖い。テレビ好きの孫たちも「テレビ無いの?」と初めは不思議だったようだが、無ければ無いで済んでしまい、つかの間の自然の中の生活に満足して大阪の街中へ帰っていく。

さて、今年の春頃にハンザキ橋に設置した 24 時間監視カメラは面白い。最も、デスク・ワークをしたくて山に籠もっているのではないので、食事時間くらいしか見ることは無いが、突然画面に現れるスターたちには感激である。波消し材のロープからいきなりカワセミがダイブしたり、夜の暗闇からナイター照明の中にカモの姿が現れたりする。カモの間は昼間だけの活動かと思っていたので意外であった。リモコンでカモを追っていたら、もう 1 羽が現れて、2 羽そろって仲良く泳いだり流木に乗ったりしていた。下流の銀山湖か上流の黒川ダム湖にカモ類が飛来しているのが、ここまでやって来たのだろう。

暖かいシーズンには、照明に集まり落下する昆虫類を食べるために多くの川雑魚が集まってくるし、アマゴなどはジャンプして飛んでいる虫をキャッチしたりする。しかし、真冬の 2 ~ 3 の水温では魚たちも隠れて出てこないし、虫も動かない。しかし、3 月 5 日は啓蟄の日と言われ、毎年カメムシたちが隠れていた場所からブンブン飛び出してくる。今年のこの啓蟄の日に突然、アンコ淵の空間が小魚の大群で埋まった。何も動くものの無いモニターの画面であったのが、何か小さなものがチラチラ動くのでズームにして確認すると魚であった。虫もいないのにと思いながら見ていると、岩についている藻類をついばんでいる様子が見られた。確かに、日中は春を思わせる暖かさであったが水温の方はそんなに急に上昇はしないのだが、彼らは何かを感じ取っているのだろう。

肝心の黒主君も温水放水が無くなってからは、せっせと顔を見せてくれる。ただし、最近はなんとなく変な行動パターンである。巣穴の上の直径 50 ㍉くらいの岩の下に頭を突っ込んだまま 1 時間くらい動かないのである。夜間でも日中でもこのスタイルでじっとしている。モニターの画面には黒主の特徴である背中 2 つホクロまで明瞭に見えるが、水蒸気の立ち上る温水放水の間は水面が湯気で見えなくなってしまうのが残念だ(写真 6 参照)。ライトの位置も工夫しないと水面に反射する光がカメラに入って周辺が見えなくなる。

この冬は、色々と試みつつ今シーズンの繁殖期に焦点を合わせたいものだ。集合する繁殖集団やオス同士のバトル、黒主の頻繁なパトロール行動そしてメスの入巣とスニーカーオスの行動と言う一連の繁殖生態を収録したいと今から待ち遠しい。

## 孫との雪遊び

今年の冬は1月に50センチほどの積雪があったが、寒暖の差が激しく降雨もあり雪がドンドン融けてしまう。大阪に住んでいる孫たちは雪遊びに憧れている。私自身も小学生の時には雪が降るとうれしくて仕方なかった思い出がある。東京のほぼ臍の位置にある立川市は標高は100メートルの所で、24歳まで過ごした。小学生の長靴が雪に埋まるほどのことは再々であった。朝、登校する時には、まだ誰も踏んでいない雪道をジグザグに歩いて雪に自分の足跡をつけながら、後ろを振り返ると革靴のサラリーマンがジグザグに歩いているのを見てうれしがっていたものだ。

ハンザキ研では4回の冬を経験したが、雪が降るとあたり一面が白一色になり、なんとなく心が弾んでしまう。滑って痛い目にもあっているし雪掻きの腰が痛む作業も経験しているにもかかわらず、やはり朝、窓の外が雪景色になっているとうれしくなってしまう。これは子供心の延長なのかもしれないが、暖かい日が続く間に雪が消えていく光景を淋しく眺めている。連休に雪を楽しみにしている孫たちがやってきた。残念ながら、僅かに校舎の陰に氷の雪が残っているに過ぎない。それでも子供たちは雪だ！雪だ！と大喜びである。親子でかき集めた雪でカマクラを作るべく雪の山を積み上げた。中をくり貫くには心もとないので水をかけて夜間に凍りつくことを期待した。

翌日は、朝から雪山のくり貫き作業であった。夜間の冷え込みで凍りついた雪は崩れることも無く無事にカマクラが完成した。中に3人の孫が入れる広さがあり、満足そうな顔がのぞいている。午前中はこの雪遊びで大張り切りだった幼稚園の年少組の孫娘が、昼食中に「寒い寒い」と言い出して食欲も出ない様子になった。熱も出ているようで冷えたのかなと心配したが、一日幼稚園を休んだだけで元気になっていると言うことで安堵した。

しかし、孫連が帰阪した夜、こんどは私が寒くなってしまい、それから10日間寝込むことになってしまった。食欲も無く、ひたすらアルコール飲料でエネルギーを補給したが食事を作る気分にもなれず、ひたすら寝ることでこの風邪かインフルエンザかをしのごうとしたが、結構長引いて3週間もシンドイ思いをすることになった。この、無菌室状況のハンザキ研に一体どこから“菌”がやって来たのだろうか？ 天からの鳥インフルかと冗談を言っていたが、ちょうど同じ時に普段は元気いっぱい地域在住のNPO事務局長と理事が同じようにダウンしたと言うことで、“黒川インフル”と命名することにした。

孫は1日で回復したが年の差であろうか、久しぶりの風邪引きとなってあっという間に逃げ月が去ってしまった。啓蟄も過ぎ、本当に春だなと感じさせられるが油断は禁物だ。当地は、3月になっても一晩で10センチくらいの積雪は普通だ。しかし、春の雪はあっという間に消えてしまう。うれしさと寂しさを繰り返しながらの山国の生活である。昨冬のように雪の重さでフキのとうが曲がることも無く顔をのぞかせている。マンサクも咲きコブシの芽も膨らんできた。雪国の春はまた格別に素晴らしいものだ。

ハンザキ研日誌

2009年2月

- 5日 国交省豊岡河川国道事務所他来所・出石川のオオサンショウウオ原状復帰の件で
- 6日 アンコ淵で謎の泥にごり・・・犯人は？
- 8日 大沼弘一副理事長(兵庫県自然保護協会理事)来所
- 9日 風邪？でダウン(無菌室状態の研究所にどこから菌が来たのか？)
- 11日 オオサンショウウオ健康診断(柿木研究員・名古屋港水族館の小林氏他)  
兵庫県立人と自然の博物館にて「共生の広場」事例報告(奥藤事務局長他)
- 13日 春一番吹く(掲示板が倒れたのは初めてであった)
- 16日 兵庫県文化財保護審議会(兵庫県公館にて)
- 18日 新名神道路建設事務所来所
- 19日 三井物産環境基金 助成決定  
カワウがアンコ淵で潜水していた(6日の泥にごりの犯人判明！)
- 20日 建設技術研究所来所(出石川・兵庫県の調査報告に)  
兵庫県立生野高校4名見学に
- 21日 NPO 事務局会議(7名)  
研究室に大型石油ストーブの設置
- 23日 一晩中の雨で融雪大增水となる
- 24日 但馬信用金庫の助成金受け入れ口座作成  
GS-279 終了
- 26日 新名神道路環境委員会(高槻市にて)
- 27日 揖保川水系さかながのぼりやすい川づくり委員会(森誠一委員長)姫路にて
- 28日 ビールと共に配送されて・GS-280 調査開始

.....  
ハンザキ所長のツブヤ記録

この冬は寒暖の差が激しい。1月には一晩で50㍉の積雪があったが、昨冬のように2か月間も降雪が続いたような安定した雪国の様相とは異なっていた。急に暖かくなったり降雨があって融雪増水(山の中や日陰の雪が一気に解けて川が濁流となる。一晩中ゴロンゴロンと川の石が転がる響が寝床に伝わってくる)が頻発したりしている。1月には姫路水族館の飼育係だったファミリーが遊びに来て雪投げやダルマ作りに精を出していた。2月にはかろうじて校舎の陰に残っていた氷雪を集めて私の孫たちが「かまくら」を作って楽しんでた。街中で生活していると時たまの雪はうれしいものだ。私もここで生活のほとんどを過ごしているが、寒くても雪が降るとなんとなくうれしい気分になってしまう。滑らないようにへっぴり腰でぼつぼつ歩いているが、透明な路面は危険だ。見事に滑ってしまう。